

2020年度事業計画

(単位：千円)

<全体事業費 1,642,071>

1 競技運営 60,239

各府県政令市実行委員会や競技団体、その他の関係機関との協議・調整を行い、エントリー開始後の募集枠の管理、競技別プログラムの作成、競技役員等の編成、競技用具の整備、表彰用メダルの制作等を行うとともに、テストイベントやオープン競技を実施し、各競技会の開催に向けた機運醸成を図る。

- ① 関係団体との連絡調整 3,970
各競技会の開催準備を進めるにあたり、関係省庁、日本スポーツ協会、日本障がい者スポーツ協会、中央競技団体及び各府県政令市実行委員会等との協議・調整を行う。
- ② 競技大会の運営に関する調査 2,060
各競技会の開催準備を進めるにあたり、2020年に開催される各競技会のテストイベント及び海外類似大会の運営調査を実施する。
- ③ 中央競技団体等との調整会議の開催 1,165
大会準備の進捗状況をはじめ、大会全般に関する情報共有及び意見交換の場として、中央競技団体等との調整会議を開催する。
- ④ 競技の充実に要する経費 10,000【新】
海外選手の銃器輸出入手続きの一部を業者委託する。
- ⑤ 競技要項等翻訳経費 1,500
海外及び国内の外国人に適切な競技会情報を提供するための競技別実施要項やホームページの更新作業に伴う翻訳を行う。
- ⑥ ドーピング検査費 200【新】
世界アンチ・ドーピング規定及び国際マスターズゲームズ協会規定に基づき、ドーピング防止活動を実施するための打合せを行う。
- ⑦ 競技運営にかかる大会開催支援アドバイザー 1,344
大会開催支援アドバイザーを活用し、専門的な見地から各競技会の競技運営等について助言・指導をいただき、大会本番に向けた準備を推進する。
- ⑧ メダル制作経費 40,000【新】
各競技会の成績優秀者に授与するメダル（金・銀・銅）を制作する。

2 大会運営 460,025

大会開催に向けて、エントリーシステムや大会ヘルプデスク（コールセンター含む）を運用し、より多くの方の大会参加を促す環境整備を行うとともに、大会総合本部・各ビレッジ等の準備や大会参加者に配付するキットの作成等を行い、大会期間中、参加者に満足していただけるよう、実行委員会その他関係機関と連携し、あらゆる事態を想定し、多岐にわたる検討課題を解決しながら、万全の受入体制の確立に向けた取組を行う。

- ① エントリーシステムの構築及び運営補助業務 89,173
参加者のエントリーが円滑に進むようシステムの運用とトラブル発生時のサポート及び対策を行う。

- ② 大会案内業務（大会ヘルプデスク・コールセンター含む） 31,900
大会期間中の案内業務の準備を進めるとともに、ヘルプデスク（メール）・コールセンター（電話）による問い合わせ対応を行い、参加者満足度の向上につなげる。
- ③ 大会総合本部、各ビレッジの運営 115,843
大会総合本部や各ビレッジの運営マニュアルを策定するとともに、テストイベント等において運営シミュレーションを行う。
- ④ 参加者キット等 216,144【新】
大会参加者の満足度を向上させるため、全参加者に配付する参加者キット（Tシャツ、リュックサック、タオル）の作成や参加者向けガイドブックの作成等を行う。
- ⑤ 大学連携事業 680
学生が大会運営の企画・提案を行うインターカレッジ・コンペティションの開催や提案具体化に向けた支援を行うとともに、大学と大会運営に関する協力体制を築くためのネットワーク構築を行う。
- ⑥ 関係団体との連絡調整 6,285
大会を運営するにあたり、必要な関係省庁及び関係団体に対し、協力支援や連絡調整を行うこと及び各府県政令市実行委員会等との協議・調整を行うとともに、日本スポーツ協会、関係省庁、SFTC、東京2020をはじめとする関係団体等との連絡調整や、4月に北京で開催されるスポーツアコードへの出席等により関係団体との連携を図る。

3 交流施策 52,640

ワールドマスタースゲームズは、大会期間中に参加者同士や地域住民との『交流』を楽しむ大会でもあり、過去の大会でも交流の場の充実が大会評価の大きな要素となっていることから、本大会においても交流の場の提供を重視し、積極的に取り組む。

- ① 交流事業関係準備 20,000
参加者がより多くの方と交流の機会を持てるよう、式典前及び大会期間中に様々なイベントの実施に向け、以下の業務について業者委託する。
- ア オープニングビレッジ EXPO（5/11～14、みやこめっせ）
開会式に先立ち設置されるオープニングビレッジで、ステージイベント、飲食ブース・スペース、各種体験エリア（ファンゾーン）の運営
- イ 閉会式前イベント（5/30、大阪城公園内）
閉会式への参加促進に向けて、閉会式当日の市民参加型イベント実施
- ウ 一体感醸成のための交流の場の提供
- ・大会動画配信サイト「WMG.ステーション（仮称）」開設
大会期間を通して、分散した開催広域会場での競技や交流の「熱」を伝える仕組みとして、スマートフォン等で視聴できる動画配信サイトの開設
 - ・一体感醸成イベントの実施（5/23、うめきた広場及び各開催府県政令市交流拠点等）
大会の中間日に大会の一体感の醸成と盛り上がり大会後半へつなげていくためのイベントの実施
- エ 大会参加者向け特典の協力店舗等の開拓及び調整
大会参加者へのホスピタリティと競技開催地の地域活性化を促すため、大会期間中に大会参加者が、飲食の割引等の特典を受けられるよう、店舗・施設の開拓及び条件等の調整を実施

オ 交流拠点における全国の魅力紹介事業

交流拠点において、各都道府県の紹介を行う PR ブースの設置や PR 映像を放映することによる競技日前後の全国各地への訪問機会の創出

※ WMG. ステーション（仮称）を魅力あるサイトとするために、府県政令市実行委員会が取組む動画コンテンツづくりに関連する事業の支援調整を行う。

② ^{フラワー}生花リレー事前イベント 30,000【新】

開催府県政令市（13 府県市）の取組が 1 つに集まり開会式で結実するというストーリー性を表現するとともに、本大会への関心と期待を呼び起こすため、13 府県市にて各シンボルフラワーを用いたイベントの実施と、13 府県市を巡る映像撮影、編集を行う。

- ・既存イベントを活用したシンボルフラワーパスセレモニーの実施
- ・13 府県市の競技会場や観光名所を巡るリレー映像の撮影、編集

③ 関係団体との連絡調整 2,640

交流拠点でのイベントを実施するにあたり必要な関係省庁、関係団体、開催府県政令市等に対し、連絡調整・協議を行う。

4 ボランティア運営 126,631

大会を運営するにあたり必要な延べ 60,000 人のボランティアの確保に努めるとともに、各ビレッジや競技会場等に必要なボランティア配置数について検討・調整を行う。また、ボランティア活動を行っていくうえで必要な知識を得るための研修や、ボランティアキットの作成を行う。

① ボランティア運営・研修業務 37,128

ボランティアの募集や各会場への配置計画の確定等を行うとともに、ボランティアが活動に必要な知識を習得するための研修を行う。

② 募集広報・関係団体との連携 1,490

ボランティア募集に係る広報物を作成するとともに、東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会等と連携して募集広報を行うことで大会ボランティアの確保に努める。

③ ボランティアキット作成 73,013【新】

ボランティア従事者に配付するポロシャツ、サコッシュ、タオル等のキットを作成し、研修時に配付する。

④ ボランティア保険 15,000【新】

安心してボランティア活動に従事いただけるよう、組織委員会において傷害保険に一括加入する。

5 安全対策・危機管理 87,683

大会を開催する上でのリスク分析（洗い出し・評価）結果・大会特性（外国人参加者比率が 40%超である・高齢者や障がい者の参加も多い・広域開催である）・競技特性を踏まえ、「事前対策（保険加入を含む）」及び「有事対応（医療救護対策を含む）」の具体化を図る。

① 危機管理対策 21,446

リスク分析結果・大会特性・競技特性を踏まえ、具体的な安全対策事項の策定、競技・式典会場ごとの中断・中止基準の策定をおこなう。またサイバーリスクやテロリスクなど特殊リスクについても事前対策・有事対応について定める。

② 医療救護対策 2,037【新】

医療救護計画を策定し、消防・医療などの関係機関とも協議・連携しながら、競技会場及び開閉会式場、ビレッジ等において、あらゆる可能性を考慮して必要な医療救護体制の構築を図る。

③ 大会保険 64,200

リスク分析結果・大会特性・競技特性を踏まえ、業務遂行賠償責任保険・サイバー保険の継続加入及び準備期間中・開催期間中に大規模災害やテロ等が発生し大会が中止となった場合に備えた大会中止保険に加入する。

6 観光施策 23,000

スポーツツーリズムの観点から、国内外の参加者の満足を得られるような本大会らしい質の高い観光プログラムを提供するとともに、参加者の利便性に配慮した大会専用の観光情報プラットフォームを構築し、大会参加者が開催エリアを周遊観光できる仕組みを作る。

① 観光事業の基盤となる仕組みづくり 1,178

競技開催地域の観光情報を発信するとともに、大会オリジナルの着地型観光商品の販売（検索、予約、決済）が可能なサイトを構築する。

- ・各府県政令市の基本的な観光情報に加え、各開催地でしか味わえない体験プログラムを大会オリジナルとして販売し、参加者の観光・周遊促進、開催地の地域振興に繋がるような仕組みを構築する。

② 体験プログラムの造成・販売の仕組みづくりとプロモーション支援 21,822

実行委員会が造成する各開催地でしか味わえない体験プログラムを、国内・国外参加者に魅力的で訴求性のある観光コンテンツに磨き上げ、観光サイトにおいて地元に着地型観光商品として販売できるよう支援する。

- ・2020年2月一般エントリー開始に合わせ、WMG特別体験プラン専用サイトで販売する。（競技開催地×3商品147商品を予定）
- ・大会終了後も地元でレガシーとして残り、関西の地にサステイナブルな観光が実現するよう推進していく。

※ 上記取組にあわせ、関西広域連合及び関西観光本部と連携し、参加者の広域周遊を促すモデルコースを作成する。

7 宿泊施策 36,665

大会の広域性を勘案し、参加者目線に立った安全・安心な宿泊施設の提供を目指すため、WMG宿泊センター（宿泊業務受託旅行会社内に設置）を設置し、宿泊施設との手配に関する専門業務及び宿泊業務全般にかかる業務を委託するとともに宿泊施設検索と予約がワンストップで行える大会参加者用宿泊予約サイトを構築する。

① 競技（開催地）別パートナーホテルの設定 27,097

宿泊困難地対応と実行委員会や開催市町の意向（地域内宿泊）を組み入れた施設提供を実現する。2020年2月のエントリー時にあわせ、WMG宿泊センターにおいて参加者用客室を事前確保したパートナーホテルについて、エントリー状況や予約申込状況等を踏まえ、客室の追加調整やパートナーホテルの新規設定等の対応を行う。

② 公式宿泊予約サイトの構築・運用 9,568

2020年2月から運用開始した大会参加者用宿泊予約サイトについて、周遊観光を希望する参加者等が、様々な条件・エリア指定で宿泊施設を検索（OTA）できる比較サイトを導入する。また、予約サイトでは対応できない特殊な手配要望についても、WMG宿泊センターにおいて専用のオーダーシートを用意し、多様なニーズに対応する。

8 交通施策 88, 639

参加者がストレスなく競技に参加し、競技後も観光資源あふれる関西の地を存分に楽しんでいただける交通手段の提供に取り組む。

- ① 参加者がストレスなく移動（競技参加）できる交通体制の整備 38, 612
 - ア 広域シャトルバスの確保
府県市をまたぐ輸送等広域的な対応が必要で会長が認めるものについて、組織委員会が広域シャトルバスを確保する。
 - イ 域内シャトルバスの調整
バス集約センターを設置し、府県政令市実行委員会域内で利用するバスの調達・調整、効果的なバス利用、区域外配車等を一元的に対応する。
 - ウ 交通事業者が発行する交通企画券の販売
組織委員会が指定する交通事業者が発行する交通企画券等に対して、受託事業者の独自の販売体制を活用した販売体制の構築に向け調整を進める。
- ② 大会参加者への交通インフォメーションの提供・相談対応 12, 327
 - ア 交通インフォメーションガイド作製
多様な参加者がストレスなく各会場に移動できるよう、一覧性が高く必要な情報が集約された交通インフォメーションガイドを作製する。
 - イ ICガイド作製／ワイドエリアガイド作製
オリジナルワンプスやワイドエリアパスの利用方法や利用エリアマップ、ビレッジ・競技会場等の情報を盛り込んだガイドをそれぞれ作製する。
 - ウ 交通案内所の運営、交通に関する問い合わせ対応、マニュアル作成
オープニングビレッジ及びセンタービレッジに交通専門案内機能を設置し、参加者への交通案内と各マスターズビレッジの専門サポートを実施する。この交通案内所機能・設置の具体化に向けて検討・調整を行う。また、エントリー開始後におけるヘルプデスクへの交通に関する問い合わせを円滑に対応するための、想定FAQ及び業務マニュアルを作成する。
 - エ 経路検索サイトの構築
競技名とひも付けした検索ができ、現在地から目的地までのルート・乗り換えをオンタイムで検索できるような参加者目線にたった大会用の検索サイトを、既存システムを活用して構築する。
- ③ ADカード・オリジナルパスケース作製 37, 500【新】
 - ア 参加者が開催期間中保有するADカードを参加者キットと同量作製する。
 - イ オリジナルパスケース作製
交通パス及びADカードを収納できるパスケースを参加者キットと同量作製する。会場内ではADカードを収納し、会場以外では大会参加者の識別や大会期間内にエリア内で参加者が同じケースを下げて移動する事で機運醸成にも繋げる。また、提示する事で施設の割引利用が可能なネットワークを構築する。
- ④ オブザーバープログラム 200【新】

次回参加都市を含めた関係者向けに、大会運営やビレッジ・競技会場運営などの理解を得ることを目的として、現地視察等のプログラムを提供。2020年度から募集を開始する。

9 大会の機運醸成 204,598

東京オリ・パラ開催にむけて全国的にスポーツへの関心が高まる中、大会1年前のPRイベント開催やグッズ販売、各地域でのプレ大会やオープン競技の開催等により、大会の機運醸成を推進する。

- ① 広報媒体制作（ポスター、チラシ、動画） 39,478
大会の知名度向上及びエントリー促進を図るため、大会PRチラシ、ポスター及び動画を作成する。また、競技者層・レクリエーション層それぞれに訴求するデザイン、内容によるチラシ等を作成し、様々な場所やイベント等で配付・掲出することで、より効果的・効率的に参加者獲得につなげる。
 - ・チラシ：国内版、外国語版（英/中繁/中簡/韓）[3つ折り]、多言語（14言語）[A4 1枚]
 - ・ポスター：国内版、外国語版（英/中繁/中簡/韓）
- ② 広報グッズ（ノベルティ）制作 21,760
大会を広く周知するための広報グッズを制作する。
- ③ 各種イベント等でのPR出展（着ぐるみスタッフ派遣費含む） 9,197
国内参加者3万人獲得をめざし、訴求ターゲットをアスリート層とレクリエーション層に分け、それぞれに効果的な広報誘客活動を展開する。今年度については、エントリー状況を随時確認し、重点的に広報が必要な競技・年齢層を見極めながら、効率的なPR活動に取り組む。
- ④ 節目イベントの開催 36,000
大会1年前や200日前、100日前などの節目に誰もがスポーツに触れる機会を創出することで、大会の機運醸成、大会への参加機運の向上を図る。
- ⑤ 大会プロパティ活用促進 9,260
ライセンス事務局を設置し、オフィシャルグッズの企画・商品化・販売や大会プロパティの積極的な活用を促進し、本大会の知名度向上や機運の醸成を図る。
- ⑥ 全国への情報発信 21,310
メディア向けニュースレターの作成と首都圏メディアへの継続的なアプローチにより、本大会の意義、価値について、首都圏等の報道機関を通じた全国への情報発信を行う。またPRイベントを実施するほか、本大会の魅力を伝える各種コンテンツを作成・様々な機会を活用することで、大会知名度及び大会価値を高め、参加者獲得を行う。
- ⑦ ホームページ等情報発信事業 19,000
大会概要や各競技の情報に加えて、プレ大会やオープン競技、観光・物産など各地域の魅力を伝える新たなコンテンツを作成し、会場地となる市町のPRに寄与する。
- ⑧ ポータルサイトの運用 20,160
大会スローガン「Team Do Sports」のもと、スポーツをする人、させる人、すべての人が集うプラットフォームを運用。すべての人に「する」スポーツを行う機会を提供するために、コンテンツの充実を図り、大会への参加機運の向上を図る。
- ⑨ 大会アンバサダーの運用 16,000
元アスリートや著名人が就任する大会アンバサダーの運用を行い。大会出場宣言やイベントでの稼働などで、わかりやすく大会を印象づけるとともに、参加機運の向上を図る。

- ⑩ 広報戦略にかかる大会開催支援アドバイザー 5,020【新】
大会開催支援アドバイザーを活用し、首都圏におけるメディアリレーション、ユニバーサルデザイン、情報発信方法等について助言をいただき、効果的な広報活動を実施する。
- ⑪ 各種会議用バックボード作成 200
報道カメラ等が取材対象とする関西広域連合委員会をはじめ、各種会議等において、バックボードを作成し掲出することにより、大会名及びスポンサーロゴの露出を行う。協賛企業の追加に対応するため、バックボードの修正作成を行う。
- ⑫ 大会マスコット着ぐるみの活用 360
大会マスコット着ぐるみのクリーニング・補修などメンテナンスを行う。
- ⑬ 表彰用メダルデザイン企画 446
表彰用メダルデザイン募集における最優秀賞受賞者への賞金授与及び、メダルデザインの意匠登録を行う。
- ⑭ 協賛セールス推進事業 2,000
関西の企業を中心に行ってきた協賛セールスを東京オリンピック・パラリンピックスポンサーを中心として首都圏の企業にも拡大し、更なる協賛獲得を目指す。
- ⑮ レガシー創出委員会運営 4,257
リーディングプロジェクトを含むレガシー創出事業やレガシーの成果について、レガシー創出委員会委員への意見聴取を実施する。
- ⑯ チャレンジデー開催支援事業 150
大会レガシーに繋がる住民参加型の「チャレンジデー」の参画促進のため、開催府県内市町村と連絡調整を実施する。

10 知名度向上（広報PR等） 125,270

メディアパートナーによるTV、新聞等による報道露出及びメディアリレーション活動によって広くWEBや誌面記事等のメディアへの周知を図り、知名度を向上させることで、大会の付加価値を高める。

- ① 広報ツールの改修 3,000
大会知名度やエントリー状況に応じてTVCMやHPバナーを改修し、メディアパートナーPR事業にて広告出稿を行う。
- ② メディアリレーション活動（首都圏、在阪メディア） 2,370【新】
広くメディア露出を獲得するため、「関西プレスクラブ」や「きさらぎ会」に入会し、関西圏及び地方メディアへの周知拡大を行うとともに、首都圏メディアへのキャラバン活動を展開する。
- ③ メディアパートナーPR等事業 117,300
メディアパートナーへ協賛契約に基づく広告出稿等を行い、大会知名度や参加機運の向上を図る。
- ④ 知名度調査 2,600
広報誘客活動の指標とするため、本大会の知名度調査を実施するとともに、調査結果を分析することにより、広報活動計画について適宜、検証・再考を行う。

※ 大会期間中に広報・報道センター（仮称）を設置し、メディア向けの情報発信及びメディアのニーズに応じた取材対応を行うための広報・報道対応計画を策定する。

11 参加者獲得 ※国内・海外 112,124

広報誘客戦略の考え方のもと、これまでの広報活動の効果を検証しつつ、ターゲット別・国別に他大会参加者やスポーツ愛好家等へ直接働きかける広報と、各競技団体、自治体国際化協会及び自治体海外事務所など関係機関との連携による広報活動を重層的に展開する。また、スポーツ雑誌やWEBメディアなど様々な広報媒体とのタイアップをすることにより大会周知や情報発信を行い、それらにより参加者5万人（国内：3万人、海外：2万人）の獲得をめざす。

- ① 広告掲出（WEB広告、大会プログラム） 9,925
本大会の魅力や概要について、各競技大会プログラムや機関誌、SNS等への広告出稿を行い、広く一般向けに情報発信するとともに、さらなる認知度向上に取り組む。2020年2月から、エントリーが開始されていることから、エントリー状況を見ながら、より効果的な媒体での発信に取り組む。
- ② メディアタイアップ（スポーツ雑誌、WEBメディア、地方新聞等） 15,000【新】
本大会や生涯スポーツの楽しさを伝えるため、スポーツファン層に人気のスポーツ雑誌やWEBメディア、また、地方新聞等に本大会への参加意欲を向上させる記事を掲載する。
- ③ 海外類似大会でのPR・誘客事業 12,169
過去大会参加者が多い豪州・欧米地域で開催される類似大会において、直接大会参加者に対し関西大会への参加を働きかけるとともに、各国のマスターズスポーツ関連組織や行政機関、競技団体に対し、今後の広報誘客連携について協議を行うなど、海外からの誘客に向けた積極的なプロモーション活動を実施する。
 - ・パンアメリカンマスターズゲームズ2020 リオデジャネイロ大会
 - ・パンパシフィックマスターズゲームズ2020
- ④ 重点国・地域へのPR・誘客事業 15,510
アジアからの新規参加者層獲得にむけ、各国のマスターズスポーツ組織委員会・協会やスポーツ担当機関等と相互の広報誘客活動にかかる連携を進めるほか、協賛企業の海外戦略との連携や日本スポーツ協会が実施する交流事業を活用するなど、多角的な誘客活動を行う。
また、海外のスポーツ愛好家が好むスポーツ関連雑誌・情報コンテンツへの広告出稿や記事掲載を行うことにより、ターゲット層への直接訴求を行う。
- ⑤ 海外誘客コーディネーター委託事業 2,400【新】
海外を拠点に海外在住者を対象として営業展開している旅行会社と海外からの大会参加者拡大を目的とした連携を行い、条件付きのインセンティブ契約を結ぶことにより海外の旅行会社の営業による大会の周知や情報発信、誘客活動についての協力を依頼する。
- ⑥ 関係機関を活用した海外PR事業 1,440
行政機関、競技団体、日系企業など海外に連携先をもつ関係機関に対し、ポスター、チラシ等を提供し、海外における大会周知、情報発信について協力依頼する。
- ⑦ 過去大会参加者等によるネットワークづくり 680
過去の大会参加者等による座談会を開催し、本大会の意義・価値を共有するとともに、今後の広報活動に参画いただくなど、参加者を通じたネットワークを構築し広報活動につなげる。

- ⑧ TSUNAGU 推進事業 40,000
アスリートネットワーク及び日本アスリート会議と連携し、各府県域レベルで開催される地域でのスポーツ関連イベントにアスリートを派遣し、アスリートによる競技実演やスポーツ教室、シンポジウム等を開催する。
- ⑨ 大会 HP での全国観光地及びホストタウン情報の発信 15,000【新】
全国観光地や東京 2020 ホストタウンの魅力を大会ホームページで発信することにより、海外からの訪日意欲を掻き立て、大会への参加を促進する。

12 組織委員会運営 9,330

幹事会、常任委員会および総会の開催など、組織委員会の運営を行う。

- ① 組織委員会運営事業 1,030
組織委員会を運営するために様々な事務を行うとともに、幹事メンバーによる大会運営等にかかる協議を行う。また、関係者に対し組織委員会の活動状況についてニュースレターを発行する。
- ② 常任委員会開催事業 300
大会準備や実施に関する重要な事項を協議するため、常任委員会を開催する。
- ③ 総会等開催事業 8,000
関西の府県政令市行政・国・経済界・スポーツ界など幅広い関係者が参集する総会を開催し、大会機運醸成及び成功に向けて全員が一丸となって取り組む。

13 I M G A 連絡調整 93,750

競技会場地等において I M G A との連絡調整等を行うほか、開催地契約書に基づき 2020 年度負担金 75 万ユーロを支払う。

14 事務局運営 71,477

事務経費の支弁など、事務局の運営を行う。

- ① 事務局運営事業 70,777
事務局職員の旅費交通費や臨時職員人件費のほか、事務局運営に係る事務所借上費、印刷製本費、通信役務費等の事務経費を支弁する。また、公益法人として適切な会計事務を履行するため、税理士等の指導・助言を得る。

※上記の他、職員人件費 111 百万円を別途計上

- ② 理事会等開催事業 700
法令に基づき、評議員会および理事会を開催する。
・評議員会 年 2 回 (予定)
・理事会 年 3 回 (予定)

【予 備 費】 90,000